

A DEAN MESSAGE 学部長メッセージ

続・大学卒業後の 進路について

法学部長 小川 健



OGAWA Takeshi
慶應義塾大学(法学修士)

■専門
民事手続
仲裁

■担当科目
民事訴訟法
民事執行・保全法
倒産法

民間企業への就職については、昨年ここに記事を書きましたから、そちらをご覧ください。今回は資格試験(司法試験、司法書士、行政書士、税理士、公認会計士等)と公務員試験についてです。

資格試験や公務員試験を目指すのは

特定の仕事をやりたくて、これを業務とする公務員になる、または必要な資格をとるといったことはもちろんあるわけですが、それ以外でも公務員や資格を狙うことが適切な場合があります。

たとえば、初対面の人になかなか評価してもらえないと感じている方々です。景気の良し悪しに関わらず、学生の多くは苦もなく希望する所に就職口を見つけています。また他の多くの学生は、どんなに景気が良くても就職に苦労します。景気に左右されるのは残りの少数というところになります。景気が良くても就職に苦労するタイプの学生というのは、だいたい他人と特に初対面の相手と接するのが苦手な人

たちです。このタイプの学生はある程度付合ってみれば、知的能力も高く性格も良いことが多いのですが、現在の民間企業の採用の仕方では、学生の人格や能力のごく表面的な部分しか評価することができないため、このような結果になっているのです。もちろん、訓練や慣れにより、初対面の人とも自然に話ができるようになるのですが、それなりの時間を要します。就職活動が事実上始まる3年生の夏休みまでにこれを克服する自信がなければ、筆記試験中心に評価する資格試験や公務員試験を狙うということが在って良いかと思えます。

また、女性については、結婚して家庭を持つても仕事を続けようと思つたのなら、公務員も選択肢の一つと考えて良いでしょう。公務員でも、例えば中央官庁など、国会の時期には泊まり込みや徹夜が当たり前という部署もありますが、多くのところでは、9時登庁5時退庁が普通です。やりがいのある仕事もたくさんあります。子供の保育園等の利用についても優遇されます。もちろん女性が仕事に全てををかけて働くこと

いう選択もあります。しかし、大半の人が民間企業で働き、その民間企業の多くでは夜9時前に家に帰ってくるのが難しいという異常な勤務状態である以上、自らも民間企業でフルタイムで定年まで働くということになれば、安定した家庭を築くことは、現実的には相当難しい状況だということは理解しておいた方が良いでしょう。

なお、公務員や資格を持って働く選択をする際、実際の職場を、OBやOG等の伝手を頼って見て知っておくべきことは、いうまでもありません。

実力で合格しようと思うな

さて、これらの試験について、どのように準備をしたら良いのでしょうか。

実力だけで資格試験や公務員試験で勝負しようとして失敗する方が結構います。真面目で、優秀な学生に、むしろ多いのですが、試験は所詮試験です。皆さんの人格や能力を全面的に試すものではありません。もちろん、仕事をするのに実力がなければ困りますが、試験自体はそのようなものでも割って対処すべきです。運転免許を持つていての方なら、運転免許の筆記試験には、交通法規が分かっているだけでは合格しないということが解るでしょう。問題の出され方、どんなところを聞いてくるのかを知らなければ試験にはなかなか受かりません。どの試験でもこれは同じです。設問の仕方、どのようなところで受験者をふるい分けようとするかは、それぞれ分野である程度決まっています。したがって、出題される分野の全体像を把握した上で、いわゆる「過去問」を徹底的にやるのが試験合格への早道です。

短答式の試験なら、同一の過去問集を数回はやって、問題を一目見ただけで、「これはこれが正解」と解るようになるまでやることです。最初は各選択肢が、なぜこれは正答で、これは誤答かということを解答例や解説、教科書等を読んで理解しながら時間をかけて解き、二回目からは、普通に解いて間違ったところを調べて確認するという風にします。

論述式なら、過去の出題を見て、それについてどんな点を論じなければならぬのか(論点)といえます。確認し、論点について自分はどういうことをどの順で書くのか実際に書いてみることをします。これを繰り返ししていくうちにどのようなところが出そうかも分かってきます。文章を書くのが苦手な人は、今の日本語表現の基礎となっている、漱石、鷗外、芥川等の明治時代の作家の短編集等を読んで、どういった表現をしたら、どういふことが読み手に伝わるのかということをも身につけておくことも大切です。

試験一月前ぐらいになったら、短答式でも論述式でも、実際の試験時間で問題を解くということをし繰り返し、体に解答作成のペースを覚えさせます。論述式については、過去問と自分の予想する問題について、論点を確認し、何をどういふ順で書くのか頭の中で整理するということもやった方が良いでしょう。

予備校と自力学習

それぞれの試験について、予備校が今あるでしょうが、予備校で座って授業を聞いていても試験には受かりません。勉強の仕方が分からない初めのうちは、利用してみても良いでしょう。しかし、本身に身につくのは自分で問題を読んで、どう解答するか調べて考え、論述式ならどう解答するか実際に書いてみることを通じて得たものです。

実際に、私の周りでも、資格試験や公務員試験に合格しているのは、本屋で過去問集や自分にあつた参考書、長丁場の試験なら、試験勉強をする意欲をどうやって維持するか等についての指南書等を買って自力で勉強した学生が多いようです。結局は、試験勉強をし続けるように自分を持っていくことができるかが、勝負のようになっています。

ただ、模試等があるものについては、自分の弱点等、特に勉強すべきところを見つけたり、受験者の中のおおよその位置を知るために受けてみるのも良いでしょう。